

企画展

はじめての古美術鑑賞

— 写経と墨蹟 —

大慈大悲深能拔苦救厄者
福田廣為一切作大良一
止處一切衆生之大施主常
切念時大會皆大歡喜為佛

名品で、
写経と墨蹟の鑑賞を
始めよう！



写経と墨蹟。一見ただけでは、難しそうと思われるかもしれません。写経は仏教の經典を書写したもの、また禅僧の書である墨蹟の多くは禅の心得が書かれています。確かに、その内容は決して易しくありません。しかし、ともに仏教に基づきながら、ひたすらに書き写された整然とした書と、書き手の個性までもが表れた大胆な筆跡、その対照的な書の魅力に導かれて一点一点を丁寧に見てゆくと、どこかに「推せる」ポイントが見つかるのではないのでしょうか。

そもそも写経は、6世紀に仏教が日本へ伝わって以来、今日まで連綿と続く営みです。奈良時代には、経文の書写を専門とした写経生たちが謹厳で端正な書風の経巻を遺しています。また、平安貴族たちが功德を求めて作らせた壮麗な写経の遺品に見るように、料紙装飾や書風に各時代の美意識もうかがうことができます。

一方、墨蹟は師から修行僧へ、その悟道熟達^{ごどうじゅくたつ}を認めた印可状や参禅修行の証などとして与えられました。書き手である高僧の禅の精神の表出として、その人柄が想像できるような個性的な書風がみられます。やがて茶の湯では禅宗の精神性を尊び、床を飾る第一の掛物として墨蹟を位置づけるようになりました。

このたびの展覧会では、この二つのジャンルの作品を、展示室を二分して並べることで、まずはその造形的な違いを目で見て実感していただきます。展示品は当館で所蔵する写経と墨蹟の国宝や重要文化財が中心となります。これらの作品は何が、どのように優れているのでしょうか。書としての見どころや歴史的な重要性などの鑑賞ポイントを、専門用語もわかりやすく解説しながらご紹介します。名品によって、写経と墨蹟の鑑賞を始めてみましょう。

右：国宝 観普賢經（無量義經・観普賢經のうち）（部分）日本・平安時代 11世紀 左：重要文化財 龍巖徳真墨蹟 偈頌 中国・元時代 至順2年（1331）

Museum Collection Exhibition

Introduction to Traditional Art: Sutra Copies and Calligraphy by Zen Priests

2025年 5月31日(土)~7月6日(日)

日時指定予約制

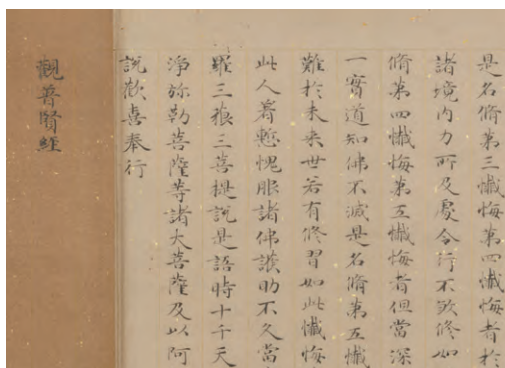
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



写経

祈りを込めた、整然とした書



国宝

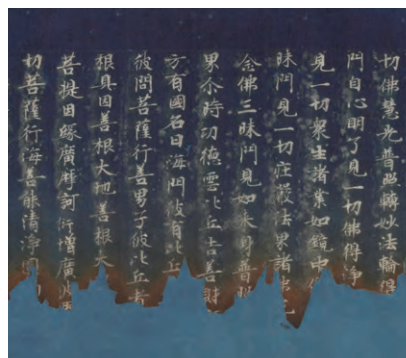
観普賢経（無量義経・観普賢経のうち）（部分）

2巻 彩箋墨書

日本・平安時代 11世紀

細かい金箔を散らし、色の異なる染紙を交互に織いだ華やかな装飾経。両巻は同一筆者で、温雅な和様の書風を呈す。書と料紙の調和美に優れた、平安後期の名品である。

平安貴族の美意識



プラチナのように輝く銀字

重要文化財

華嚴経 卷第四十六（二月堂焼経）（部分）

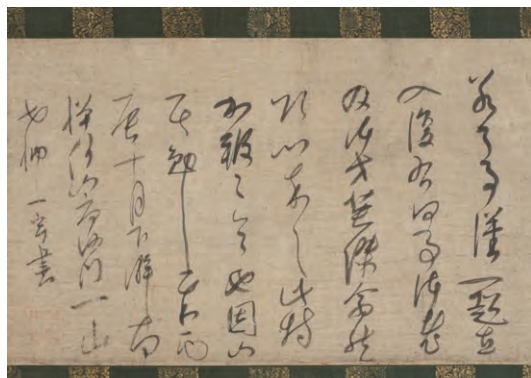
1巻 紺紙銀字

日本・奈良時代 8世紀

60巻本の「華嚴経」を書写した二月堂焼経は、奈良時代の現存する唯一の紺紙銀字経である。この1巻は、火災にあいながらも巻首から巻末まで本紙が遺っている点が大変貴重。

墨蹟

禅僧の人柄が垣間見える、大胆な筆跡



高僧からの励まし

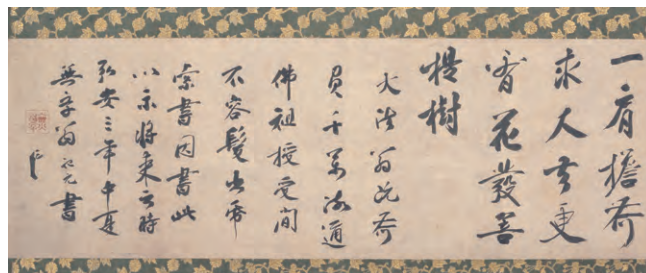
重要文化財

一山一寧墨蹟 進道語

1幅 紙本墨書

日本・鎌倉時代 正和5年(1316)

中国僧の一山一寧が、京都・南禅寺の住持をつとめていた際、日本僧の固山一暲に与えた1幅。一山は、より一層修行に励むようにと、固山を鼓舞した。流れるようによどみなく書かれた、見応えのある草書である。



師からの証明書

重要文化財

無学祖元墨蹟 附衣偈断簡

1幅 紙本墨書

日本・鎌倉時代 弘安3年(1280)

中国僧無学祖元が、日本僧一翁院豪に、自らの教えを正しく受け継いだ証として法衣を授けたことを、宗教的な詩である偈に詠んだもの。中国・宋時代の書風を伝え、無学の遺墨のなかでも優品である。

企画展「はじめての古美術鑑賞」シリーズについて

若い世代の方たちの仏像や刀剣、琳派への注目度の高まりを背景に、根津美術館では2016年から古美術鑑賞の入門編となるような展覧会を開催しています。なんとなく敷居が高いと思われがちな古美術の専門用語を作品例とともにわかりやすく解説し、見る方の興味を広げ、古美術の面白さやすばらしさを体感していただけることを目指しています。

書の中でも特に写経と墨蹟の見どころを名品で学ぶ本展は、「絵画の技法」、「紙の装飾」、「漆の装飾と技法」、「絵画のテーマ」、「人をえがく」に続く6回目となります。

展示室2 大津絵 つくれ方・たのしみ方

京都と大津を結ぶ街道の土産物として親しまれた大津絵。その制作の様子や、さまざまな享受のされ方を紹介しつつ、所蔵の大津絵を初めてまとめて披露します。



おに わんぶつず
鬼の念仏図
1 幅 紙本着色
日本・江戸時代 18 世紀



おわつ え はりまぜびょうぶ
大津絵貼交屏風
6 曲 1 隻 紙本着色
日本・江戸時代 18 世紀

大津絵の人気画題の一つで、柄にもなく殊勝な様子を表す。初代根津嘉一郎は、昭和初期の民藝運動における大津絵の再評価を受け、茶会の寄付でこの作品を用いた。

12 枚の大津絵が白木の枠の簡素な屏風に仕立てられている。大津絵の鑑賞史をうかがわせる貴重な作例。画中に道徳的な内容の漢詩が書かれるのも興味深い。

展示室5 特別仕様の美術品収納箱

美術品の収納箱の中には、所有愛にあふれる、こだわりの装飾が施されていることがあります。普段展示される機会のない、その美しい収納箱を主役にご紹介します。

やきしめちやわん むさしの
焼締茶碗 銘 武蔵野 収納箱
1 合 木胎漆塗
日本・江戸時代 18 世紀



蓋表に平時絵で大胆に配された大きな満月と繊細な秋草。内に収まる茶碗の銘にふさわしい、武蔵野を象徴する意匠である。

展示室6 風待月の茶

風待月とは旧暦 6 月のこと。蒸し暑さのなか、涼風を待つこの季節にふさわしい異称です。風を感じる季節の茶道具約 20 点を取り合せます。

せいじすかしぼりにかいこうろ
青磁透彫二階香炉
りゅうせんよう
龍泉窯
1 口
中国・元時代 14 世紀



底が高い位置にあることから、茶人・小堀遠州（1579～1647）によって「二階香炉」と箱書きされた香炉。脚部には透し彫りで蓮唐草があらわされる。

関連催事

スライド レクチャー

展示室1 はじめての古美術鑑賞—写経と墨蹟—

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。

日時：6月13日（金）、6月27日（金） いずれも11時30分～12時15分

会場：根津美術館 講堂

※ 当館ホームページから参加をお申し込みください。美術館入館料が必要です。

各レクチャーは同内容です。

開催概要

展覧会名 企画展 はじめての古美術鑑賞—写経と墨蹟—

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。（招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。）

主催 根津美術館

開催期間 2025年5月31日〔土〕～7月6日〔日〕

開館時間 午前10時～午後5時（最終入館 午後4時30分）

休館日 毎週月曜日

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円（1100円） 学生 1000円（800円）

・（ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

・当日券（一般1400円、学生1100円）も販売しております。

（ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。

混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。）

・2025年5月27日〔火〕午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。

・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口（階段）より徒歩8分、
B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536（代表）
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所／村岡
Tel. 03-3400-2538（直通） e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。（press@nezu-muse.or.jp）

次回展

企画展 ^{からえ}「唐絵—中国絵画と日本中世の水墨画—」

2025年7月19日〔土〕～8月24日〔日〕

室町時代、武家の間で中国伝来の宋元画が唐絵として尊ばれ、やがて和製の唐絵も制作されました。
館蔵の名品を通じ、唐絵の系譜をたどります。国宝「漁村夕照図」（下左）は修理後初公開です。



左：国宝 漁村夕照図 牧谿筆 中国・南宋時代 13世紀

右：花鳥図屏風（右隻） 伝狩野元信筆 日本・室町時代 16世紀

いずれも部分・根津美術館蔵